平成１９事業年度　事業計画の概要
(関東地域版)

2007年4月2日

NEXCO東日本　関東支社

あなたに、ベスト・ウェイ。

NEXCO
東日本

1．はじめに

○　ＮＥＸＣＯ東日本関東支社では、地域とともに発展し、皆様に信頼される組織となるために、「安全･快適で信頼性の高い高速道路ネットワークを提供していくこと」を支社の方針としております。この方針を実行するために、当支社では中期期間の計画（06～10年）の方針として「効率的な事業執行体制を確立させ、支社経営を定着させる」こととし、あわせて事業毎の中期計画を定めています（参考資料参照）。

平成19年度は、この中期計画を本格的に実施に移す重要な時期にあたります。

○　この「平成１９年度事業計画の概要（関東地域版）」で、当関東支社が平成１９年度に取り組む、具体的な高速道路事業の計画をお知らせいたします。

2．平成１９年度事業計画のポイント

高速道路建設事業では6道路２１８kmの建設を実施し、高速道路管理事業では高速道路１０道路８８９km、一般有料道路１０道路２３２Km計1,１２１kmの管理を行います。

■平成１９年度事業計画のトピックス

① 館山道（君津IC～富津中央IC）が新たに開通し、館山道が全線開通します。

② 圏央道（八王子JCT～あきる野IC）の開通により関越道から中央道まで接続されるほか、北関東道の順次開通など、首都圏の環状道路の整備が進みます。

③ ETCをさらに快適、お得にご利用いただけるよう、ETCﾚｰﾝの増設や、各種企画割引などの料金サービスを展開します。

④ 京葉道路の幕張PAなどで魅力ある店舗の新規開業を目指します。

⑤ アクアライン開通10周年にあたり、海ほたるＰＡのリニューアルや年間を通じた様々な記念イベントを行います。

3．高速道路建設事業の事業計画（1）

1．地域の発展と暮らしの向上に貢献するネットワークの整備

平成１９年度は、関東支社管内において首都圏の環状道路及び北関東自動車道等の高速自動車国道4道路１２４km、首都圏中央連絡自動車道等の一般有料道路2道路９４km、合計２１８kmの新設事業を実施します。

○ 放射幹線道路を結び首都圏に集中する交通を分散し、慢性的な渋滞の緩和や沿道環境の改善を図るとともに都市構造の再編に資する環状道路の整備を推進します。

《東京外環自動車道、首都圏中央連絡自動車道、北関東自動車道》

※H19年度は圏央道2区間、北関東道2区間が開通します。

○ 地域間の活発な交流を支え、活力ある地域づくり･地域産業の活性化を促す地域プロジェクトの循環型ネットワーク整備や空港･港湾等へのアクセス道路の整備を推進します。

《東関東自動車道･館山自動車道等》

※H19年度は館山道が全線開通します。

○ 事業の実施にあたっては、建設マネジメントを確立し効率的かつ計画的、重点的に高速道路整備を行うとともに、新たな調達方式などによりコスト削減へ継続的に取り組むとともに品質の向上を目指します。

○ のり面の樹林化などを通じてCO2削減に取り組むとともに、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト塊などの建設副産物のリサイクルを推進し、循環型社会の形成に貢献します。

3．高速道路建設事業の事業計画（2）

■平成１９年度の開通予定区間

道路名	区　間　等	開通予定延長（km）
館山自動車道	君津～富津中央	９．２
北関東自動車道	宇都宮上三川～真岡※1	７．５
	笠間～友部※1	９．１
首都圏中央連絡自動車道	鶴ヶ島JCT～川島※1	７．７
	八王子JCT～あきる野	０．４※2
	計	４３．１

※1　事業中のインターチェンジ等の名称については仮称です。
※2　八王子JCT～あきる野間の全体延長は中日本高速道路㈱分9.2kmを加えると9.6kmになります。

≪北関東自動車道　笠間IC～友部IC≫

3．高速道路建設事業の事業計画（3）

■高速自動車国道（新設事業）の平成19年度事業内容

道路名	区　間	延長（km）	事業内容	完成予定
館山自動車道	君津～富津中央	9．2	供用に向け工事を進める	平成19年度
北関東自動車道	伊勢崎～太田※	16．0	工事の進捗を図る	平成20年度
	太田～岩舟JCT※	23．9	用地取得及び工事の進捗を図る	平成23年度
	宇都宮上三川～真岡※	7．5	供用に向け工事を進める	平成19年度
	真岡～岩瀬※	14．9	工事の進捗を図る	平成21年度
	岩瀬～笠間※	8．9	工事の進捗を図る	平成20年度
	笠間～友部※	9．1	供用に向け工事を進める	平成19年度
東京外環自動車道	三郷南～高谷JCT※	16．0	用地取得及び工事の進捗を図る	平成27年度
東関東自動車道	鉾田～茨城南※	9．4	測量･設計を進める	平成27年度
	茨城南～茨城JCT※	8．8	用地取得及び工事の進捗を図る	平成21年度

※事業中のインターチェンジ等の名称については仮称です。

3．高速道路建設事業の事業計画（4）

■一般有料道路（新設事業）の平成１９年度事業内容

道路名	区　間	延長（km）	事業内容	完成予定
横浜横須賀道路	佐原～馬堀海岸※	４．３	用地取得及び工事の進捗を図る	平成２０年度

※事業中のインターチェンジ等の名称については仮称です。

○　首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

・　圏央道は、都心から半径およそ40km～60kmの位置に計画された総延長約300kmの環状の高規格幹線道路で、首都圏３環状道路の一部です。

・　現在までに国土交通省において約265kmが事業化され、東日本高速道路㈱においてはそのうち約109kmを有料道路事業として事業化し、国土交通省と共同で目標宣言プロジェクトにより事業を進めています。

・　平成１９年度は、国土交通省とともに調査設計、用地買収及び工事を推進していく予定です。

・　圏央道をはじめとする首都圏３環状道路の完成目標等、詳しくはホームページを参照願います。（http://www.ktr.mlit.go.jp/3kanjo）

3．高速道路建設事業の事業計画（5）

2．既存ネットワークの機能向上

渋滞を解消･緩和し既存道路の機能回復･向上を図るために、インターチェンジ等の新設･改良などの事業を進めます。

■主なインターチェンジ等の新設･改良

道路名	事業箇所	事業内容	完成予定
館山自動車道	木更津羽鳥野BS	供用に向け工事を進める	平成19年度
京葉道路	蘇我IC	工事中 （館山道方面への出入ランプの新設）	平成19年度

○ 上記の他に東関東自動車道酒々井IC(仮称)･湾岸船橋IC（仮称）及び東北自動車道黒磯IC(仮称)において地域活性化ICを事業中です。
また、京葉道路においては市川IC（改築）及び幕張ＰＡの拡張工事を実施中です。

3．高速道路建設事業の事業計画（6）

4．高速道路管理事業の事業計画（1）

お客様を第一に計画的かつ効率的な事業運営を図ることを基本とします。
また、高速道路の原点である安全・安心・円滑・快適性の向上やお客様ニーズの反映のため、柔軟かつ適確な対応を行います。

1.安全･安心･円滑で快適な道路交通を確保します。

■毎日安心してご利用いただけるよう、道路のきめ細かな日常管理を行います。

○ お客様に安心してご利用いただけるよう、路面や橋梁、トンネル、施設設備などの維持･点検に努めます。

■お客様に満足いただける道路管理を行います。

○ 雪に強い道路を目指すため、効率的な雪氷作業や雪氷対策設備の充実を図ります。

○ 地域性や路線特性を考慮した顧客満足度（ＣＳ）調査を実施･分析し、維持管理事業と関連性を効果検証し、ＣＳ向上に努めます。

４．高速道路管理事業の事業計画（2）

■安全･安心で快適な道路環境の向上を目指し、舗装の高機能化や交通安全対策を推進します。

○ 雨天時の走行環境を向上させるため高機能舗装化を進めます。

･東北道、関越道、常磐道などで約１５０車線･Kmの高機能舗装化を進め、高機能舗装化を約６５％から約６８％に向上させます。

○ 中央分離帯の防護柵を強化型に整備し、重大事故を防止します。

･東北道、常磐道、東関東道などで中央分離帯防護柵を強化型に整備し、強化型防護柵整備率を約８６％から約８９％に向上させます。

○ ジャンクション（JCT）やインターチェンジ（IC）のランプ部に種々の安全対策工を実施し、重大事故を防止します。

〔色付き舗装、減速レーンマーク、矢印板、大型標識等〕

○ 暫定２車線区間の車線逸脱防止対策等の整備により、効果的な安全対策を推進します。 〔凹凸型路面標示等〕

《高機能舗装》

《中央分離帯強化型防護柵》

《色付き舗装、減速レーンマークによる速度抑制対策》

《大型標識によるカーブ手前での注意喚起》

《凹凸型路面標示による車線逸脱防止》

４．高速道路管理事業の事業計画（3）

■道路の定時性を確保するため、通行止時間の削減を目指すとともに、渋滞対策の推進や道路情報提供の充実を図ります。

○ 路上工事による車線規制を減らし、交通の円滑化及び渋滞の減少を目指します。

○ 関係機関との連携により通行止めの際には迅速な交通の回復に努め、通行止め時間の短縮を図ります。

○ 交通集中期の渋滞緩和を図るため、関越道（高坂ＳＡ付近、花園IC付近、本庄児玉IC、渋川伊香保IC）及び東北道（矢板IC）の付加車線設置事業を推進します。

○ 通行止め発生時には、開通を待たれるお客様に対して、様々な手段により、通行止め解除に向けた作業状況などの情報を提供していくよう努めます。

≪交通事故の処理状況≫

≪付加車線設置事業のイメージ≫

４．高速道路管理事業の事業計画（4）

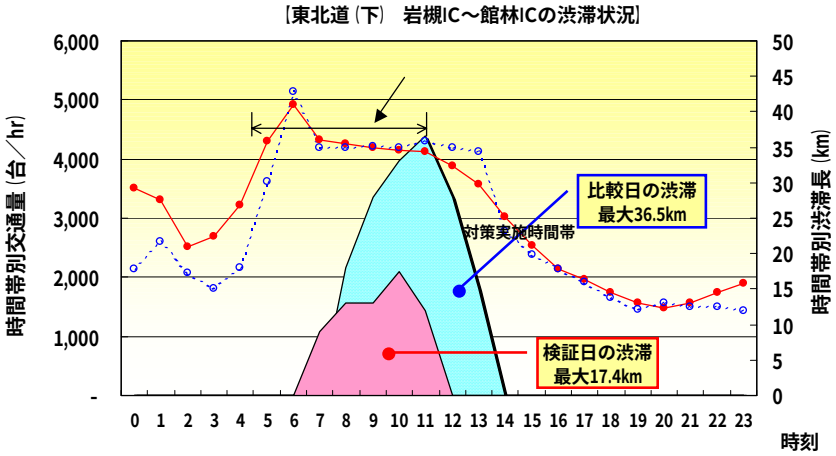
○ 情報提供機器をより有効に活用し、リアルタイムで詳細な情報提供の更なる充実に努めます。
また、渋滞時速度回復情報や渋滞予測情報の提供を実施するなど渋滞緩和に努めます。

LED標識車による情報提供 「500m先渋滞終了」

LED標識車による情報提供 「速度回復間います」

≪東北道（下）羽生ＰＡ付近で対策実施し効果確認できた一例≫　平成18年8月13日（日）

同様な交通量レベルで比較
・渋滞延長が　37km⇒17km（約半減）
・渋滞量（延長×時間）が　126km時⇒41km時（約7割減）



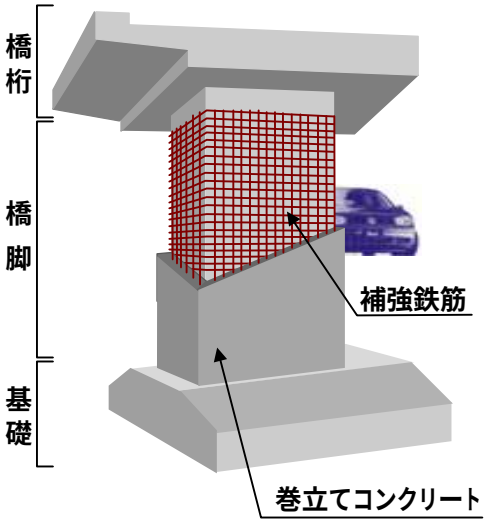
４．高速道路管理事業の事業計画（5）

■災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強などの防災対策を推進します。

○ 兵庫県南部地震クラスの地震に対し、優先的に耐震補強を実施する必要のある橋梁について耐震補強を進め、橋脚耐震補強完了率を約９０％から約９３％に向上させます。主に東関東道、第三京浜道路で補強を行います。

○ 降雨防災の強化を図ります。〔切土のり面補強等〕

《橋脚の耐震補強状況》



《のり面補強状況》

４．高速道路管理事業の事業計画（6）

■人・環境にやさしい道路空間を構築します。

○ エコ ロードキャンペーンの実施。

・高速道路のネットワーク整備やＥＴＣ普及促進などによる渋滞の緩和、道路のり面の樹林化などを通じてCO_2削減に取り組んでいきます。

○ 遮音壁の設置等、沿道の生活環境保全に必要な環境対策を適切に実施します。

○ 植物発生材の堆肥化など緑のリサイクル及び建設副産物のリイクルを推進し、循環型社会の形成に貢献します。

《遮音壁の設置》

《緑のリサイクル（堆肥製造）》

４．高速道路管理事業の事業計画（7）

2．ETCを活用した弾力的な料金設定など、多様なサービスを提供します。

■ETCを活用した料金企画割引などの料金サービスの展開を進めます。

○ ETCを活用し、期間や地域を限定した料金割引を実施するなどお客様サービスの向上に努めます。
〔圏央道(八王子JCT～鶴ヶ島JCT)に時間帯割引を導入〕
〔地域を限定した企画割引や開通記念キャンペーン等を実施〕

○ ETCの多様なサービスをわかりやすくお知らせするとともに、以下の普及策などに取り組みます。
〔ETC車載器ご購入支援〕(二輪車ETCマイレージ2，000ポイントプレゼントなど)
〔ETC車載器リース制度の継続支援〕

■ETC諸設備の整備などサービス向上に努めます。

○ 快適にETCをご利用いただけるように**関東支社管内でETCレーンを29レーン増設**し、利用環境の向上を図ります。

○ ETCカード未挿入をお知らせするアンテナの整備を順次進め、**停止処理率0.18%⇒0.17%**を目指します。

○ 以上の各種施策により**ETC利用率65%⇒71%**を目指します。

４．高速道路管理事業の事業計画（8）

○お客様が快適･便利･安心してご利用いただけるよう、トイレをリフレッシュします。

･和式便器の洋式化を進め、洋式便器に暖房便座を順次整備します。

･温水対応の自動水洗を順次整備します。

･ベビーシートや小型手洗い器を備えた大型ブースを順次整備します。

･トイレ内の床の段差を順次解消していきます。

《洋式･暖房便座･大型ブース》

《自動水洗の整備》

《段差の解消》

４．高速道路管理事業の事業計画（9）

３．トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

■適切な管理水準の検討・実施、ライフサイクルコストの最小化を図るマネ ージメント手法の定着、新技術の開発など、効率的な道路管理を行います。

○ 総合保全マネージメントを本格化し、資産の長期健全性とライフサイクルコストの最小化、維持 修繕による望ましい「管理水準」の追求、PDCAサイクルの実務定着に取り組みます。

○ 新技術・新工法を積極的に取り入れることなどによりトータルコストの削減を目指します。

◇ ＰＶＭシステム

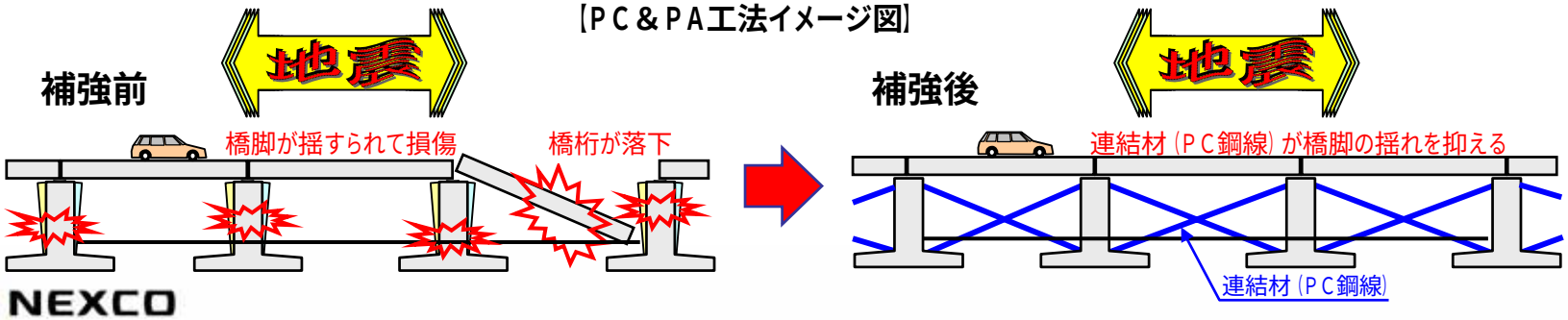
トンネル構造の保全にかかる調査技術として開発（弊社保有特許技術）したＰＶＭシステムを活用し、トンネル覆工ｺﾝｸﾘｰﾄ背面の空洞調査及び対策工事の合理化、コスト削減に取り組みます。

◇ ＰＣ＆ＰＡ工法

既設橋脚の頭部を連結材（ＰＣ鋼線）で連結し、地震時の橋脚の揺れを抑制することで、橋脚の補強工事の合理化を図り、コスト削減に取り組みます。

【ＰＶＭシステムによるトンネル空洞調査状況】

【ＰＣ＆ＰＡ工法イメージ図】



４．高速道路管理事業の事業計画（１０）

４．道路管理におけるリスクマネージメントを適切に実施します。

■緊急時も迅速、適切に対応できるよう、危機管理を強化します。

- ○ 大規模災害時にも早期復旧に努め、高速道路が緊急輸送道路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。
- ○ 地域の救急医療支援のため、地域と一体となって緊急進入路の整備に努めます。
- ○ 国や地方自治体との連携を強化し、またマニュアルの整備や適切な防災訓練を実施するなど、危機管理体制を強化します。
- ○ ドクターヘリの運用への協力を実施し、救援活動の迅速化を支援していきます。

※4月より千葉県内は運航マニュアル適用開始

≪本城BS（長野道）緊急進入路≫

≪ドクターヘリ≫

４．高速道路管理事業の事業計画（１１）

■不正通行対策を徹底します。

○　不正通行対策本部を設置し、会社をあげて「不正通行は許さない」という姿勢で対策に取り組みます。

■料金所安全対策を重点的に実施します。

○　料金所の総合安全対策として、平成20年度末までに関東支社内全料金所の約8割に収受員が利用する車線横断用の安全対策通路を整備するとともに、安全性向上のための各種設備の設置を進めて行きます。

≪摘発された強行突破車両の撮影事例≫

≪安全対策通路（イメージ写真）≫

４．高速道路管理事業の事業計画（１２）

５．アクアライン開通10周年記念について

■アクアライン10周年記念イベント

○ アクアライン開通10周年にあたり、「アクアライン　おかげさまで10周年！」と題して、日ごろのご愛顧に感謝し、イベントを開催します。

○ イベントは、昨年の大晦日の「カウントダウンイベント」を皮切りに、開通日である１２月１８日まで、圏央道の開通、館山道の全通、海ほたるＰＡのリニューアルに合わせて、アクアラインをつなぐ、千葉県、神奈川県の観光協会等の協力を受け、海ほたるＰＡで地域と一体となった様々なイベントを展開します。

■海ほたるＰＡリニューアル

○ 東京湾横断道路（株）と協力により、今夏、海ほたるＰＡがリニューアルされます。

【海ほたるＰＡ内観イメージ】

４．高速道路管理事業の事業計画（１３）

６．地域、関係機関等との連携を強化し、高速道路による社会への貢献を目指します。

■既存の高速自動車国道の有効活用や地域経済の活性化の推進を目的としたスマートIC（ＥＴＣ専用インターチェンジ）社会実験に協力することにより、その効果や整備・運営上の課題を事前に把握し、今後の円滑な運用を目指します。また、社会実験を経て本格運用となったスマートICの利用促進及びフォローアップを、地域と協力し継続して行います。

【社会実験中箇所】

路線名	休憩施設等名	出入方向
常磐自動車道	水戸北 （常磐道と一般国道１２３号の交差部）	東京方面への入り口 東京方面からの出口のみ

【本格運用箇所】

路線名	休憩施設等名	出入方向	本格運用日
東北自動車道	上河内ＳＡ	東京方面への入り口、東京方面からの出口のみ	H19.4.1
東北自動車道	那須高原ＳＡ	東京方面への入り口、東京方面からの出口のみ	H19.4.1
常磐自動車道	友部ＳＡ	フル方向	H18.10.1
関越自動車道	三芳ＰＡ	新潟方面への入口、新潟方面からの出口のみ	H18.10.1
関越自動車道	駒寄ＰＡ	フル方向	H18.10.1
上信越自動車道	佐久平ＰＡ	フル方向	H19.4.1
上信越自動車道	小布施ＰＡ	フル方向	H18.10.1
長野自動車道	姨捨ＳＡ	岡谷JCT（名古屋・東京）方面への入口、 岡谷JCT（名古屋・東京）からの出口のみ	H18.10.1

水戸北スマートIC　ＯＦＦランプ
状況写真（遠景・ETCゲート付近）

5．サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画（1）

「礎づくり」・「華づくり」の具体化

■コンビニ・専門店等の着実な展開

○ 収益向上に向け、すべてのエリアでサービスレベルの向上を目指す「礎づくり」と、立地の特性に応じて個性的なサービスを展開する「華づくり」という2つの面を同時に追及し、具体化を図ります。

○ 「礎づくり」の具体化として、お客様の便利をサポートする「コンビニエンス・ストア」を着実に展開します。(2箇所)

○ 「華づくり」の具体化として、お客様のニーズの高い「専門店」(ex.「シアトル系カフェ」)を本格展開します。(4箇所)

【コンビニエス・ストア導入事例：
常磐自動車道　日立中央PA（上）】

【専門店導入事例：東北自動車道　蓮田SA（上）】

５．サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画（2）

■商業施設への新たな展開

○ 首都圏や拠点となる主要なSAPAにおける地域のお客様のご利用もふまえた商業施設の整備を計画的に推進します。

○ 平成20年春の開業を目指し、京葉道路幕張パーキングエリアなど3箇所で新規商業施設の建設工事を実施します。

○ 既存商業施設の、リフレッシュ工事、建物・設備の改修等を実施します。

【京葉道路　新・幕張ＰＡ（下）外観イメージ】

【京葉道路　新・幕張ＰＡ（下）内観イメージ】

５．サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画（3）

■さらなる安心・安全・快適さの追求

○ フェイスtoフェイスのきめ細かな対応を行う「エリアコンシェルジュ」を平成18年度に引続き導入します。
（平成19年度：１１箇所）

○ お客様サポート機能の充実を図るため「ベビーコーナー」を拡張・充実させます。

○ レストラン内設置のお客様用トイレに「パウダーコーナー」及び「洗浄タイプの洋式便器」を、今年度から2年間で全箇所に設置します。

○ ＡＥＤの管理、救急用品の配備等を行います。

【エリア・コンシェルジェ導入事例：
常磐自動車道　守谷ＳＡ（下）】

■地域との連携を活かしたサービスの拡大と開かれたエリアづくり

○ 地域の特産物・工芸品等を販売する地域特産品市場を展開します。

○ エリア周辺のお客様に外から利用していただけるようにするため、商業施設の周辺地域側の整備を実施します。

【地域特産品販売事例：
常磐自動車道　守谷ＳＡ（上）】

6．道路受託事業の事業計画

長年培ってきた技術とノウハウを活かし、国、地方公共団体等の事業推進に貢献していきます。

■新直轄方式で整備することとなった中部横断自動車道（佐久～八千穂）について、技術とノウハウを活かし、事業推進に協力するとともに、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

道路名	区　間	延長（km）	事業内容
中部横断自動車道	佐久ＪＣＴ～佐久南※ 佐久南～八千穂※	７．８ １４．６	工事実施中（国土交通省から事業を受託） 調査・設計中（国土交通省から技術監理業務を受託）

※事業中のインターチェンジ等の名称については仮称です。

■なお、上記区間以外に圏央道の一部区間等において事業受託し道路整備を推進しています。

7. 新規事業の事業計画

■E―NEXCOpassのさらなる普及

○　ＥＴＣ走行とＳＡ・ＰＡでのご利用でポイント２倍、さらに貯まったポイントで高速料金の支払い、ロードサービスや各種無料の保険など「Ｅ－ＮＥＸＣＯｐａｓｓ」の魅力を体感していただくため、ＰＲ活動を強化します。

■経営資源を活用した事業の推進

○　日比谷駐車場事業において、「近隣の映画館、劇場などと連携した新サービス」の展開など、お客様サービスの拡大を推進します。

○　占用施設活用事業（第三京浜道路高架下など）を着実に推進します。

○　会社が所有・管理する施設を、映画やテレビなどの撮影に活用いただくため、「ロケーションサービス」を開始します。

≪E-NEXCO pass≫

≪駐車場事業≫

≪高架下事業≫

参 考 資 料

関 東 支 社 方 針

○安全・快適で信頼性の高い高速道路ネットワークを提供します。

・お客様とのふれあいを第一に、お客様の満足の向上に努め、地域とともに発展します。

・効率的で公正・透明な事業運営に努め、皆様に信頼される組織を目指します。

(参考；事業別方針)

【道路管理事業】 安全・円滑で信頼性の高い高速道路ネットワークを確保しつつ、引き続き事業の効率的な運営に努め、お客様のニーズを踏まえた快適な道路空間の提供を目指します。

【道路建設事業】 関東地域における環状道路や放射道路の整備による信頼性の高い高速道路ネットワークを構築し、お客様の利便性向上、活力ある地域づくり及び渋滞緩和に貢献します。

【道路受託事業】 中部横断道において、技術とノウハウを活かし、国の事業推進に協力し、信頼性の高い高速道路ネットワークの構築に貢献します。

≪中期期間の方針≫

２００６年度から２０１０年度までを 『効率的な事業執行体制を確立させ、支社経営を定着させる期間』 として位置づけます。

◆グループ経営をはじめとした効率的に事業を推進する仕組みを構築し、地域に密着しつつお客様を第一に考えた支社経営を適切に実施していきます。

◆管理事業については、耐震補強の推進、高機能舗装率やＥＴＣ利用環境の向上、道路情報提供の充実、魅力あるＳＡ・ＰＡづくりなどにより、お客様ニーズを踏まえた「安全」「円滑」「快適」な道路空間の提供を目指します。

◆建設事業については、首都圏の環状道路のうち、北関東自動車道及び首都圏中央連絡自動車道（事業化区間）の概成を目指すとともに、地域ネットワーク型路線のうち、館山自動車道及び横浜横須賀道路を全線開通させるなど、高速道路ネットワークを概成することで、お客様の利便性を向上させるとともに、活力ある地域づくりに貢献します。

平成19年度　開 通 予 定 区 間

[館山道（君津(きみつ)ＩＣ～富津中央(ふっつちゅうおう)ＩＣ）]

○開通区間　　千葉県君津市(きみつし)から
　　千葉県富津市(けんふっつし)まで

○延　　長　　９．２ｋｍ

○幅員及び車線数　　３．５ｍ×２車線

○設計速度　　１００ｋｍ／ｈ

○路線概要

館山自動車道は、千葉県千葉市を起点に房総半島の内房地域を通って千葉県富津市に至る延長約５５Ｋｍの高速自動車国道です。東京湾アクアライン、京葉道路、富津館山道路及び圏央道と一体となり、首都圏と南房総地域との交流・連携強化に貢献する極めて重要な路線です。今回開通する君津ＩＣ～富津中央ＩＣ間が開通することにより、すでに開通している起点から君津ＩＣ間の約３９ｋｍ及び富津中央ＩＣから富津竹岡ＩＣ間約７ｋｍとあわせて全線開通することとなります。

○整備効果

館山自動車道の全線開通で、富津館山道路富浦インターチェンジまでの高規格幹線道路のネットワークが完成することにより、南房総地域への首都圏からの所要時間がさらに短縮されることや周辺地域の交通混雑及び渋滞の軽減が想定され、地域の利便性の向上や活性化が期待されます。

平成19年度　開 通 予 定 区 間

[圏央道（八王子(はちおうじ)ＪＣＴ～あきる野(の)ＩＣ）]

○開通区間　　東京都八王子市から
　　東京都あきる野市まで

○延　　長　　９．６ｋｍ（うち９．２ｋｍは中日本高速道路㈱の所掌）

○幅員及び車線数　　３．５ｍ×４車線

○設計速度　　８０ｋｍ／ｈ

○ジャンクション　　１箇所
　　八王子ＪＣＴ　　東京都八王子市
　　（中央自動車道に連結）

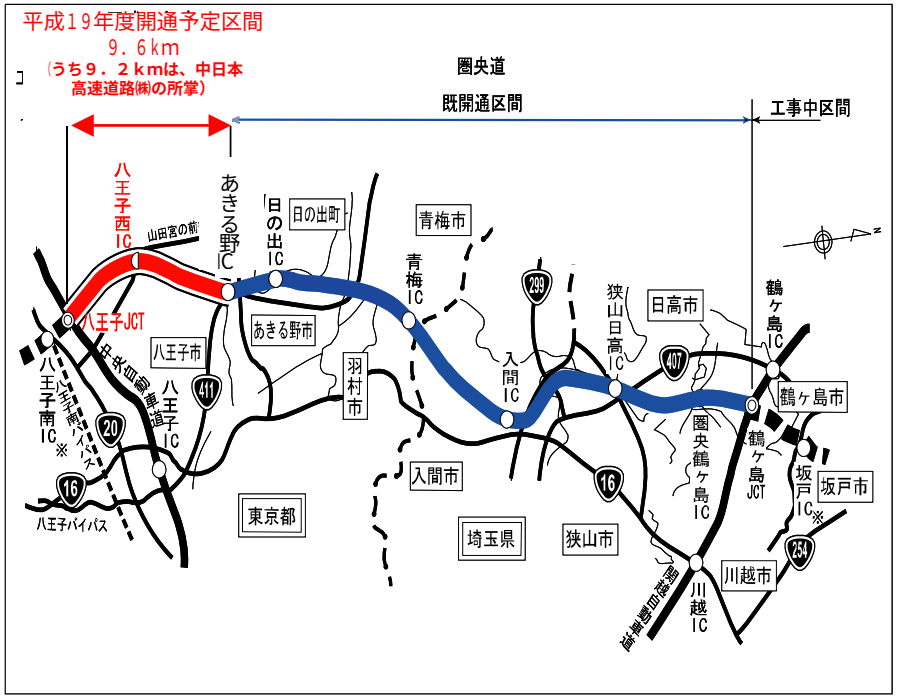
○インターチェンジ　　１箇所
　　八王子西ＩＣ　　東京都八王子市
　　（都道山田宮の前線に連結）

○路線概要

圏央道は都心から半径40km～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都高速中央環状線，東京外かく環状道路と一体となって、首都圏の幹線道路の骨格となる３環状９放射の道路ネットワークを形成し、首都圏の交通混雑緩和に大きく寄与することが期待されています。

○整備効果

八王子ＪＣＴ～あきる野ＩＣ間の開通により、中央自動車道と関越自動車道が直結されることから、都心方面へ流入する交通の分散及び通過交通の迂回といった機能が発揮され、併行する国道16号のみならず首都圏の渋滞、混雑の緩和が期待されます。



平成19年度　開 通 予 定 区 間

[北関東自動車道（宇都宮上三川(うつのみやかみのかわ)ＩＣ～真岡(もおか)ＩＣ※）]

○開通区間　　栃木県河内郡上三川町から
　　栃木県真岡市まで

○延　　長　　７．５ｋｍ

○幅員及び車線数　　３．５ｍ×４車線

○設 計 速 度　　１００ｋｍ／ｈ

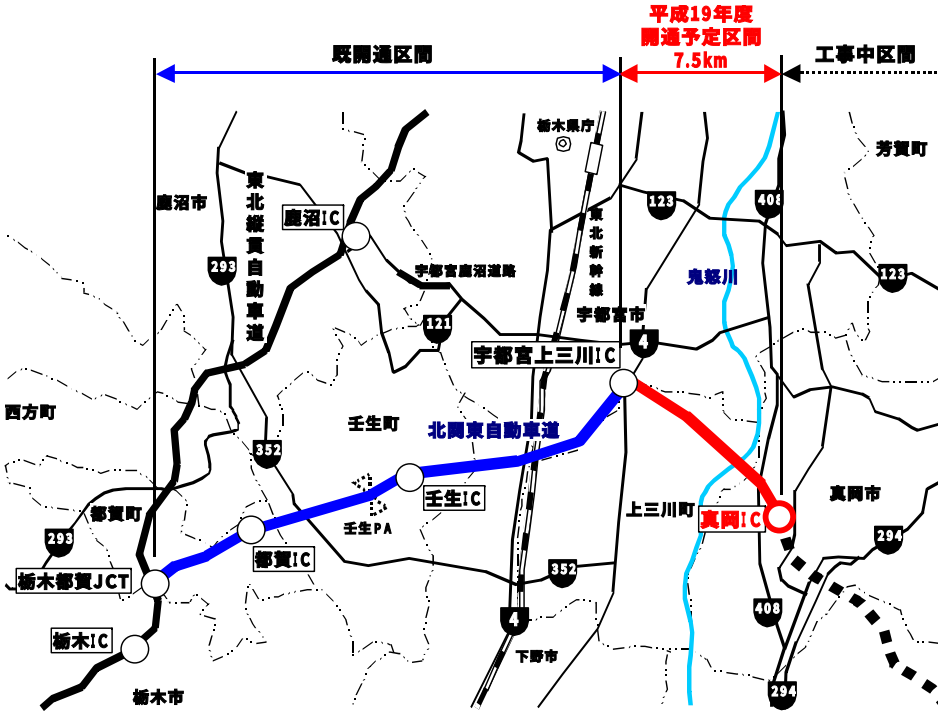
○インターチェンジ　１箇所
　真岡ＩＣ※　　栃木県真岡市
　　（一般国道４０８号に連結）

○路線概要

北関東自動車道は、群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市を結ぶ全長約１５０ｋｍの高速自動車国道であり、栃木県においては既に約１９ｋｍが開通しています。群馬、栃木、茨城３県の主要都市を結ぶとともに、常陸那珂有料道路を介し国際港の常陸那珂港とこれらの都市とを結ぶとともに、東京から放射状に伸びる関越自動車道、東北自動車道及び常磐自動車道を連結して広域的な高速道路ネットワークを形成する道路です。

○整備効果

今回開通する宇都宮上三川ＩＣ～真岡ＩＣ間は、北関東自動車道の東へ延伸する７．５ｋｍの区間で、茨城方面へのアクセスが向上されます。また、真岡インターチェンジ周辺には大規模な真岡工業団地があり、経済及び地域の活性化が期待されます。



※事業中のインターチェンジ等名称は、仮称です。

平成19年度　開 通 予 定 区 間

[北関東自動車道（笠間(かさま)ＩＣ※～友部(ともべ)ＩＣ）]

○開通区間　　茨城県笠間市から
　　茨城県笠間市まで

○延　　長　　９．１ｋｍ

○幅員及び車線数　　３．５ｍ×４車線

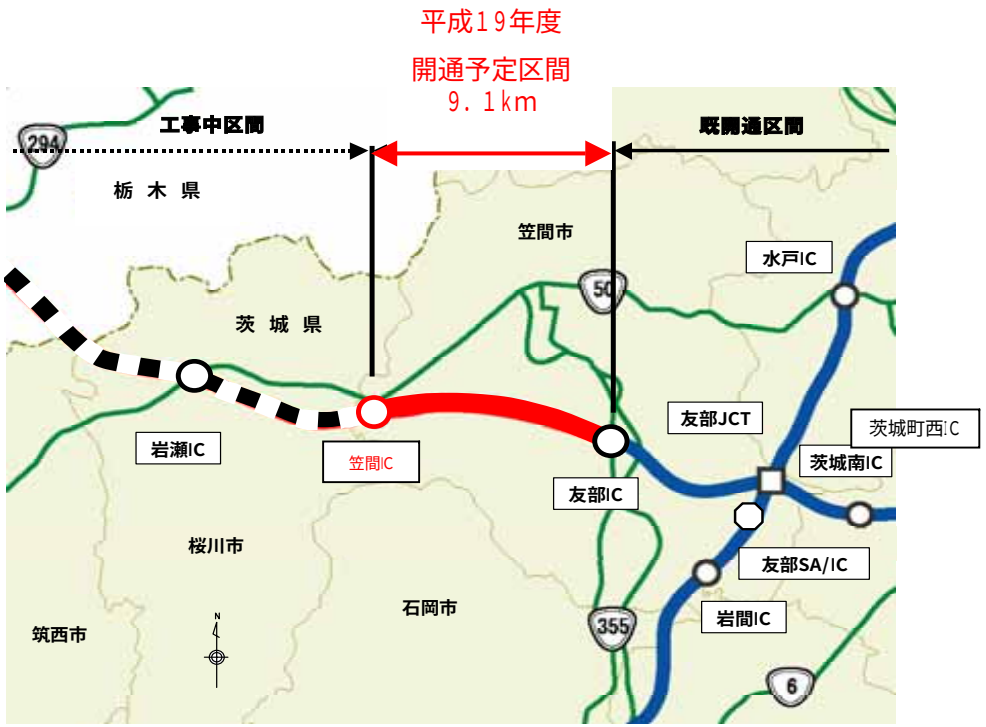
○設 計 速 度　　１００ｋｍ／ｈ

○インターチェンジ　１箇所
　　笠間ＩＣ　　茨城県笠間市
　　（県道土浦笠間線に連結）

○路線概要
　北関東自動車道は、群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市を結ぶ全長約１５０ｋｍの高速自動車国道であり、茨城県においては既に約２１ｋｍが開通しています。群馬、栃木、茨城３県の主要都市を結ぶとともに、常陸那珂有料道路を介し国際港の常陸那珂港とこれらの都市とを結ぶとともに、東京から放射状に伸びる関越自動車道、東北自動車道及び常磐自動車道を連結して広域的な高速道路ネットワークを形成する道路です。

○整備効果
　笠間西ＩＣから友部ＩＣの開通により、茨城県県西地域と県央地域を結ぶ、唯一の主要路線である国道５０号の渋滞緩和に資することが期待されます。

※事業中のインターチェンジ等名称は、仮称です。



平成19年度　開 通 予 定 区 間

［圏央道（鶴ヶ島(つるがしま)ＪＣＴ～川島(かわじま)ＩＣ※）］

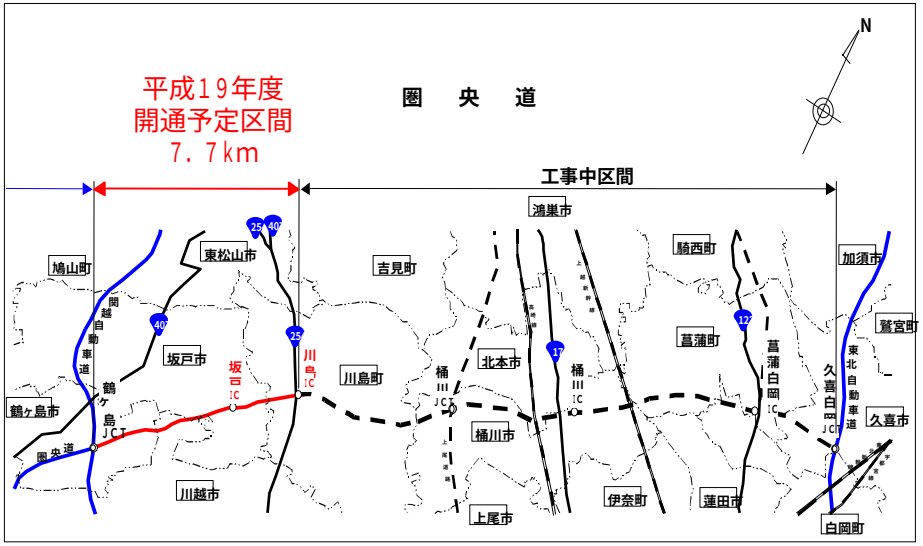
○開通区間　　埼玉県鶴ヶ島市から
埼玉県比企郡(ひきぐん)川島町(かわじままち)まで

○延　　長　　７．７ｋｍ

○幅員及び車線数　　３．５ｍ×４車線

○設計速度　　８０ｋｍ／ｈ

○インターチェンジ　　２箇所
坂戸(さかど)ＩＣ※　　埼玉県坂戸市
（都市計画道路坂戸東川越線に連結）
川島(かわじま)ＩＣ※　　埼玉県比企郡川島町
（一般国道２５４号に連結）



○路線概要
圏央道は都心から半径40km～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの高規格幹線道路であり、首都高速中央環状線，東京外かく環状道路と一体となって、首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、首都圏の交通混雑緩和に大きく寄与することが期待されています。

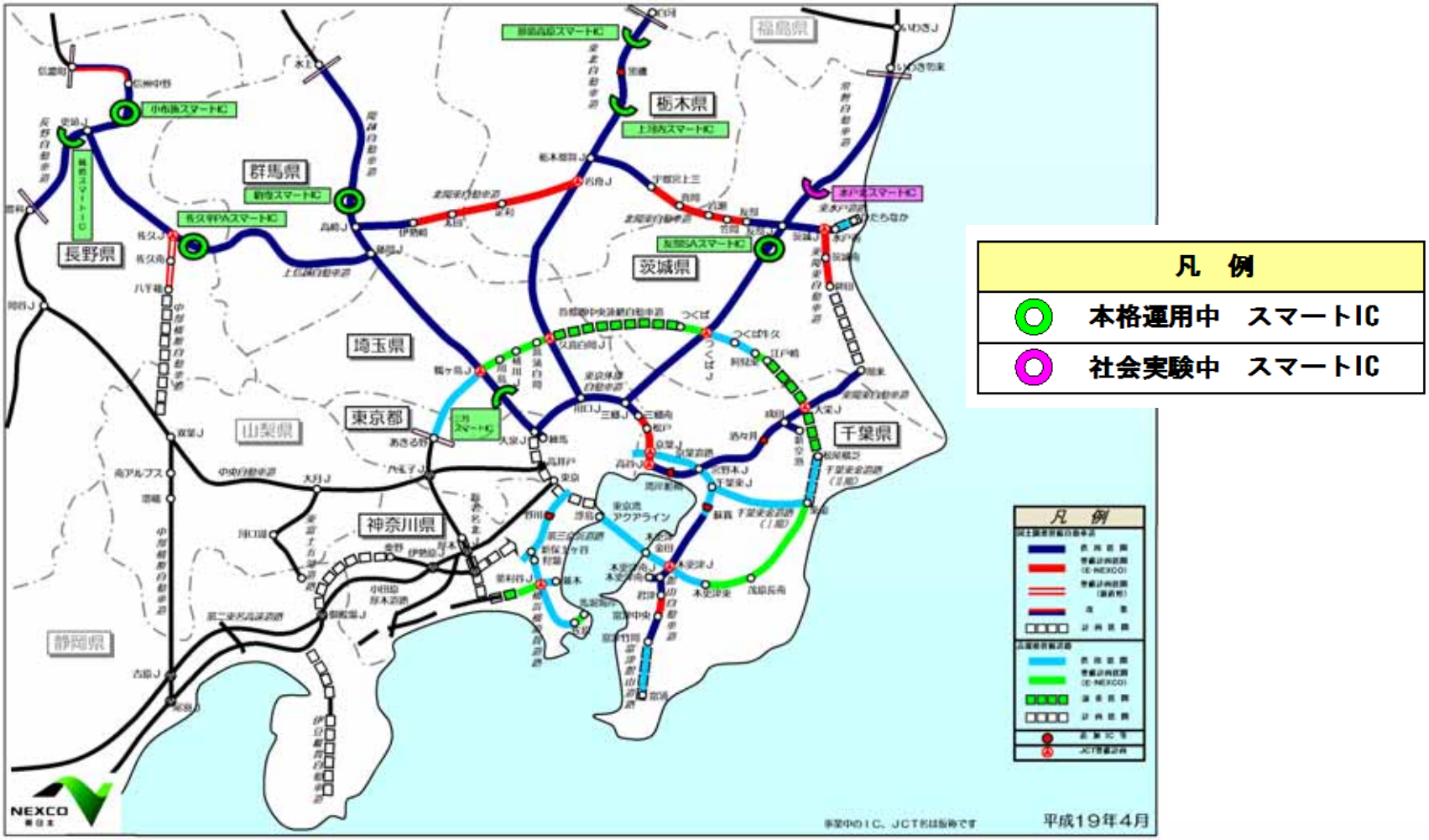
○整備効果
圏央道の関越自動車道と東北自動車道を結ぶ区間での初めての開通であり、既開通区間とともに埼玉県内の東西の交通軸が強化されます。
また地域の自立・発展の為、圏央道の開通を生かした産業集積の推進の一環として平成18年10月に公表された「田園都市産業ゾーン基本方針」などを促進させるとともに、首都圏や全国との交流・連携を効果的に進める路線として大きな期待が寄せられています。

※事業中のインターチェンジ等名称は、仮称です。

NEXCO 東日本

スマートIC本格運用・社会実験中　箇所

○　駒寄ＰＡ等５箇所が平成18年10月1日から，上河内ＳＡ等３箇所が平成19年4月1日から本格運用
○　水戸北スマートIC（本線直結型）について社会実験を実施中。



目　次

1．はじめに　・・・・・　1

2．平成19年度事業計画のポイント　・・・・・　2

3．高速道路建設事業の事業計画　・・・・・　3

4．高速道路管理事業の事業計画　・・・・・　9

5．サービスエリア･パーキングエリア事業等の事業計画　・・・・・　22

6．道路受託事業の事業計画　・・・・・　25

7．新規事業の事業計画　・・・・・　26

≪参考資料≫　・・・・・　27